



- 1. 可塑性のある情景〈面影〉  
ゴムシートにシルクスクリーン | 76×57cm | 2018
- 2. 可塑性のある情景〈成分〉  
ゴムシートにシルクスクリーン | 138×92cm | 2019
- 3. 可塑性のある情景〈歴史〉  
ゴムシートにシルクスクリーン | 57×72cm | 2018
- 4. 可塑性のある情景〈影像〉  
ゴムシートにシルクスクリーン | 93×93cm | 2017

[関連イベント]  
9月8日[日] 13:00-17:00  
「フォトグラメトリーって何?」  
◎ フォトグラメトリー撮影&三次元化体験  
◎ シルクスクリーン印刷体験  
◎ 出品作家による作品解説  
◎ 研究内容の紹介  
事前予約不要 | 参加無料

京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA  
〒604-0052 京都市中京区押油小路町 238-1  
Tel 075-253-1509 <http://gallery.kcuu.ac.jp/>



## 複眼と対称のノード

NODE of Compound Eye and Symmetry

### 複眼

多視点から捉えた写真を元に紡ぐフォトグラメトリー技術は、トンボなどが持つ複眼構造と似ている部分があります。そして、自らの立ち位置を多視点的に捉える事と重ね合わせています。

### 対称

軸や点を起点に回転させると一致する性質。作品とプロセス、創作と研究、作家と教員など、二項に分断しているように見えても、見方を変えれば、完全に一致して同一の存在になる様を表しています。

### ノード

コンピュータネットワークで情報伝達の結節点。結び目。集合点。会場に展示された作品。制作の現場。計測の機器。映像。テキスト。それぞれがノードといえます。そして、それらを繋ぐ関係性が頭中のネットワークです。

は 以 絵  
版 な  
を ら 次 性  
、私 や の 中 を 研 在 生  
、表 に 京  
い

## 複眼と対称のノード

NODE of Compound Eye and Symmetry

2019年

8月31日[土]—9月16日[月・祝]

京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

展示室1@KCUA1

開館時間 11-19時 休館日 9月2日(月) 9月9日(月)

主催 京都市立芸術大学 協力 アワガミファクトリー

入場無料

# 複眼と対称のノード





# 版画制作

「版画制作」は、単なる「作り方・技術」以上の意味を持つ特異なメディアだと感じています。刷られた版の重なりや、分版を読み解く事で作者の意とする絵画空間をよみとり、作為を超えた物理現象の扱いで偶然性と距離感を察し、イメージや版の仕組みによって作者の批評性を考察する。観客が制作プロセスを逆算する事は、作品の意味的な構造にも繋がると考えています。現在、私は、写真から3次元データを得るフォトグラメトリー技術を作品に使っています。対象物の色や柄、質感を無視し、表面の形状だけを抜き出すことで現れる奇妙な結果に魅了されました。日頃、見ている世界の認識を逆照射する可能性を感じています。今回、会場構成の中に制作プロセスに関わるエリアを設け、作品に対するメタ的な構造を与えようと考えています。会場である@KCUAを客観的に捉えると、京都芸大のサテライトギャラリーです。そこで、大学の研究者として現在進行中の研究中間発表を、また、版画専攻の教員であるという要素を踏まえて、卒業生、在学生で担当した・している学生の版画作品も合わせて展示します。それらを繋ぎ合せて版画作品の構成要素、自身の構成要素を並置し繋ぐ、そんな空間を構想しています。

## 出品者・研究代表者

吉岡 俊直 京都市立芸術大学 | 版画専攻 | 准教授

## 出品者

大野 咲樹 京都市立芸術大学 | 版画専攻 | 大学院1年生

木下 珠奈 京都市立芸術大学 | 版画専攻 | 2016年修了

小西 景子 京都市立芸術大学 | 版画専攻 | 2018年修了

佐古 俊介 京都市立芸術大学 | 版画専攻 | 学部4年生

佐藤 雄飛 京都市立芸術大学 | 版画専攻 | 大学院2年生

藤田 紗衣 京都市立芸術大学 | 版画専攻 | 2017年修了

## 科学研究費 研究分担者

村上 史明 筑波大学 | 芸術系 | 助教

## 特別研究 共同研究者

田中 栄子 京都市立芸術大学 | 版画専攻 | 准教授

版画の制作プロセスは、単なる「作り方・技術」以上の意味を持つ特異なメディアだと感じています。

刷られた版の重なりや、分版を読み解く事で作者の意とする絵画空間をよみとり、

作為を超えた物理現象の扱いで偶然性と距離感を察し、イメージや版の仕組みによって作者の批評性を考察する。

観客が制作プロセスを逆算する事は、作品の意味的な構造にも繋がると考えています。

現在、私は、写真から3次元データを得るフォトグラメトリー技術を作品に使っています。

対象物の色や柄、質感を無視し、表面の形状だけを抜き出すことで現れる奇妙な結果に魅了されました。

日頃、見ている世界の認識を逆照射する可能性を感じています。

今回、会場構成の中に制作プロセスに関わるエリアを設け、作品に対するメタ的な構造を与えようと考えています。

会場である@KCUAを客観的に捉えると、京都芸大のサテライトギャラリーです。

そこで、大学の研究者として現在進行中の研究中間発表を、また、版画専攻の教員であるという要素を踏まえて、

卒業生、在学生で担当した・している学生の版画作品も合わせて展示します。

それらを繋ぎ合せて版画作品の構成要素、自身の構成要素を並置し繋ぐ、そんな空間を構想しています。

吉岡俊直



JSPS科研費 JP18K00211  
2018年度～2020年度  
課題名  
「フォトグラメトリーによる動的人体の  
3Dデータ取得と享受の研究」

平成31年度 京都市立芸術大学  
特別研究 2019-003  
テーマ  
「レーザーとドローイングマシンによる  
リトグラフ(石版石)への映像利用研究」

